

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	永峯 治之	経営	H1901102
	②	笠井 昌子	福祉	H2201084
	③	三谷 宏文	福祉、経営	H2301066
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	港南子ども中高生プラザ			
事業所連絡先	〒	108-0075		
	所在地	東京都港区港南4丁目3番7号		
	TEL	03-3450-9576		
事業所代表者氏名	伊東 寛			
契約日	2025 年 6 月 18 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 12 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 10 月 1 日			
自己評価結果報告日	2025 年 11 月 12 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 17 日			
評価合議日	2025 年 11 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	区担当者との打ち合わせにより全体の流れ、留意事項の確認を行った。その後、事業所にて事前説明を行い、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により報告内容の精査・修正を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 館長 伊東 寛

印

<p>1</p>	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法人理念（隣人愛の精神に立つ・地域住民、児童に奉仕する・平和を大切にする）に基づき子ども・保護者・地域住民の支援を行う</li> <li>2 地域の全ての関係機関と連携し子育て支援のネットワークを形成する</li> <li>3 保護者にサービスの受益者としてだけでなく、ともに地域の子どもを見守る存在になってもらう</li> <li>4 3を実現するためにさまざまな地域団体・組織の事業に協力をしていく</li> <li>5 そのときどきの利用者のニーズに敏感になり、従来のものに囚われずそのニーズに合った事業に転換していける柔軟さを持つ</li> </ol>
<p>2</p>	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 港南地域の子どもにとっての健全な育ちとは何かを常に考え続け、同時に保護者の支援も両輪で取り組む姿勢を持つ</li> <li>2 利用者への明るい挨拶・声かけを心がけ、地域住民とも交流できるコミュニケーション力を身につける</li> <li>3 地域団体・組織との親和的な関係づくりに務め、事業への協力を惜しまない</li> <li>4 館内でも館外でもフットワークよく行動できる</li> </ol> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 港南地域の子どもにとっての健全な育ちとは何かを常に考え続け、同時に保護者の支援も両輪で取り組む姿勢を持つ</li> <li>2 利用者への明るい挨拶・声かけを心がけ、地域住民とも交流できるコミュニケーション力を身につける</li> <li>3 地域団体・組織との親和的な関係づくりに務め、事業への協力を惜しまない</li> <li>4 館内でも館外でもフットワークよく行動できる</li> </ol>

調査対象

調査時点での全利用登録者。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数

69

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
65		65
24		24
34.8	0.0	34.8

利用者調査全体のコメント

<アンケートの回答者属性>  
 「本人」34%、「本人が家族と話し合いながら」58%、「家族が本人の気持ちを推察して」4%、「その他」4%

<総合的な満足度>  
 「満足」75%、「まあまあ満足」21%、計96%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>  
 ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	20	4	0	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	20	4	0	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	21	2	0	1

回答者の88%が「はい」と回答した。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	13	5	0	6
回答者の54%が「はい」と回答した。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	22	2	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	6	3	0
回答者の63%が「はい」と回答した。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	24	0	0	0
回答者の100%が「はい」と回答した。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	23	1	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	18	6	0	0
回答者の75%が「はい」と回答した。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	22	2	0	0
回答者の92%が「はい」と回答した。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	19	2	1	2
回答者の79%が「はい」と回答した。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	23	1	0	0
回答者の96%が「はい」と回答した。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	3	3	3
回答者の63%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>理念や方針等を職員や利用者に理解が深まるように周知している</p> <p>理念や方針を、職員には運営理念や職員倫理綱領、職員の心得等を法人研修や職員会議での管理職のメッセージを通して説明している。利用者には保護者会、地域懇談会で方針を説明している。受付での掲示や館だよりの発行、ホームページで情報発信をするほか、近隣の学校や保育施設にも館だよりを配布し、広く周知を図っている。</p> <p>理念の実現に向け職員の役割を伝え、その達成に向けてリーダーシップを発揮している</p> <p>理念の実現に向け、入職1、2年目の職員は法人研修で理事長・常務理事からメッセージを伝え職員の役割について説明を行っている。法人では毎月発行の社内報で理事長からのメッセージを掲載して、法人理念・方針、その他職員の役割など丁寧に伝えている。また、事業所においても、職員会議で管理職からも職員の役割などをメッセージとして伝え周知を図っている。</p> <p>重要案件の決定・検討の手順を明確にし、その手順に従い決定・周知している</p> <p>重要案件の検討・決定は、館長、副館長、主任、副主任で構成されている主任会で検討・決定している。決定事項は、朝礼・昼礼・夕礼、終礼などの定例報告会や職員会議で周知している。各報告会や職員会議で出席できない職員には、副館長、主任、副主任が個別に説明し理解を得ている。利用者には、館だより、学童だよりなどを通して伝えている。</p>			

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者、職員、地域福祉の現状等の情報収集し、ニーズの把握に努めている</p> <p>利用者の意見を収集するため、毎年12月に利用者アンケートを実施し、日常的な関わりの中での意向を把握している。アンケートの結果については手紙等で報告している。職員の意向は、管理職による職員面談やリーダー職員によるOJT面談で把握している。地域福祉の現状は、港南地域自治会の会議、幼稚園、小学校の学校評議員会、区児童館長会などに出席して情報収集を行うなど、ニーズの把握に努めている。</p> <p>地域や業界のニーズを収集し、事業運営に反映している</p> <p>地域懇談会や地域・地区連絡会への参加を通じて地域の福祉ニーズを把握している。また、区児童館長会の出席により、福祉事業全体の動向を収集している。把握したニーズは、主任会を中心に共有し、事業所としての課題抽出を行い、改善に向けたプロセスなどを検討している。指定管理公募時の5年間の計画(提案書)や現状の課題に基づき、単年度の事業計画書と予算案を作成している。</p> <p>計画の実行と進捗管理、見直しは柔軟に行っている</p>		

主任会議を中心に情報共有と見直しを行い、社会状況や施設の状態を考慮して計画の改善を柔軟に行っている。また、事業計画や年間指導計画の見直しを行い、年度末に反省と振り返りを行い、次年度につなげている。今後は、その時々の子ども・保護者のニーズをより一層柔軟に取り入れていくことを検討している。

3			カテゴリー3	
3			サブカテゴリー1(3-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。			<input type="radio"/> 非該当
3			サブカテゴリー2(3-2)	
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			<input type="radio"/> 非該当
3			サブカテゴリー3(3-3)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)		
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)		
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる			<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー3の講評

**法令遵守とコンプライアンスの周知・確認の徹底に取り組んでいる**

法人研修で職員心得、ハラスメント、個人情報保護などの内容について、組織的に学ぶ機会を設けている。また、虐待防止に関しては、不適切な育成について4人のチームで毎日話し合いを行っている。話し合いの際はリーダーも含めて行っている。このように、法令遵守とコンプライアンスの周知・確認の徹底に取り組んでいる。

**利用者の苦情等に対応し、虐待防止に取り組む組織的な体制を整えている**

苦情解決体制と連絡先「事業所へのご意見窓口」を受付に掲示し、利用者に周知している。また、アンケートや日常の関わりなどを通じて意見を収集して各フロアノートに記録し、毎日の定例報告会で共有する体制がある。虐待防止対策として、日々の話し合いや様々な研修、セルフチェックを行っている。虐待が疑われる場合は、館長が直接報告し、関係機関と連携する体制を整えている。

**地域との積極的な交流や貢献活動により事業所づくりに取り組んでいる**

地域懇談会の開催や参加、館だよりの発行を通じて活動を発信し、透明性を図っている。港南地域の各自治会や連合会のお祭りに、積極的に協力・出展、模擬店用品の貸し出しを行っている。また、港南防災ネットワークの会合、公園新設の区民会議、地域連合会などに出席し児童施設としての意見を伝えている。組織的に地域との関わりを深め、地域に開かれた事業所づくりに取り組んでいる。

4			カテゴリ-4	
リスクマネジメント				
サブカテゴリ-1(4-1)				
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(00000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)				
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(0000)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリ-4の講評				
<p>平常的な危機管理対策の周知を行い、迅速かつ適切な対応ができるように努めている</p> <p>「港区危機管理基本マニュアル(改訂版)」に基づき、平常時の危機管理、危機発生時(緊急時)の対応について周知している。事故・けがが起きた時の対応、情報セキュリティ事故が起きた時の対応等のフローチャートを事務所内に掲示して、迅速かつ適切な対応ができるように努めている。建物全体での消防計画についても、他の事業者と連携して訓練を実施している。</p> <p>区の各規程に則り、適切な管理に努めている</p> <p>区の個人情報保護規程および情報開示規程に則り、適切な管理に努めている。個人情報保護については、職員研修を行い、実習生やボランティアについても受け入れ時に理解を得るよう丁寧に説明を行っている。個人情報の書類は事務所内の施錠できる書棚に収納し、デジタルデータは、アクセス権限を設定し、情報漏洩の対策を徹底している。</p>				

5			カテゴリー5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリー1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリー2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
--	--	---------------------------

カテゴリ5の講評

**職員の意向を把握し、適材適所の人材確保と配置に努めている**

正規職員の採用は法人が担当し、非常勤・パート職員は事業所で採用している。法人主導で福祉系大学・専門学校の学生向けに施設見学会や大学への訪問、説明会を実施し、必要に応じて事業所でも対応している。職員の配置については、適性や能力、または事業継続のため居住地なども考慮して適材適所の配置を行っている。

**人材育成と研修体制で職員の成長を支援している**

各役職に求められる業務を明示し、役職階級を設定している。法人研修を経験別、職位別を実施し、非常勤・パート職員には適宜行っている。研修参加一覧を職員育成計画として作成し、担当や経験に応じて均等に割り振っている。職員育成は、リーダー層が自らの役割を理解したうえで適切に指導している。

**職員の意識向上、良好な人間関係構築のため組織的に取り組んでいる**

勤務時間や休暇取得については、勤務体制に支障のない範囲で、職員の希望を反映している。連続勤務や残業が多くなるように上司が声かけを行っている。管理職と職員の個人面談を定期的実施しており、職員の状況や意向の把握に努めている。職員各自が自己目標を設定しており、管理職と振り返りをしながら目標達成できるようにサポートしている。新人職員に先輩職員が指導役として配置される「バディ体制」を取り入れており、この関係性の中で互いに学び、職務の質の向上につながるよう取り組んでいる。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
		サブカテゴリ-1(7-1)
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
		<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p> <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>母親のワンオペ育児問題が取り沙汰される中、父親の育児参画を促していく必要があり、親子同士が交流できるよう支援の実施を重点課題として、父子を対象とした行事を展開し、交流ができる機会を提供した。「パパプログラム(工作や運動あそびなど父と子で楽しむ)」「保護者フットサル」を開催した。参加する父子の数は限られていたものの、ほぼ毎回参加する方も数組いたことで、継続して実施することができ、父子だけではなく父親同士のつながりも深まり、良好な関係を築くことができた。今後は、この取り組みを継続して、将来の児童館・学童クラブ、さらには地域コミュニティの協力者となってもらえるよう、働きかけを継続していくことを目指している。</p>
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
		<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>本取り組みの意義は、以下の3点に集約することができる。第一に、「父親の主体性向上」である。父子のみで過ごす時間は、父親を「手伝う側」から「責任ある当事者」へと変容させ、母親の精神的プレッシャーを直接的に軽減させている。第二に、「父親のサードプレイス構築」である。フットサル等の交流を通じ、父親が家庭外に悩みを共有できるネットワークを持つことは、父親自身のストレス緩和となり、家庭内の人間関係を円滑にする潤滑油として機能している。第三に、「地域全体で支える土壌づくり」である。参加者が将来の地域協力者へと成長する道筋は、一家族の課題を地域全体で支える仕組みへと昇華させるものである。総じて、本事業は父親の参加を入り口としつつ、その真価は「母親を孤立から解放し、家庭の回復力を高めた」点にある。この良好な関係性の継続は、地域全体でワンオペ育児を解消していく「文化の醸成」を確実に進める原動力となっている。</p>

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

外国にルーツがある児童の増加に伴い、他児とのトラブルや保護者間の理解不足が課題となっていたため、国籍や障がいの有無を問わず子ども同士が主体的に交流できる居場所づくりに着手した。具体的には、寺子屋(学校の宿題の補習など)プログラムの開催回数をコロナ前と同水準に復旧し、外国にルーツがある児童も積極的に受け入れ、子どもたちが自ら役割分担や意見交換を行えるよう支援した。併せて、肌の色などへの揶揄に対しては小学校と連携した丁寧な指導を徹底した。その結果、差別的な言動が減少し、子ども同士が互いの考えを尊重し合う自発的な関係づくりが進展したほか、保護者からも活動への高い関心と信頼を得ることができた。今後は、子どもたちの成長プロセスを保護者へより丁寧に共有することで家庭間の相互理解を深めるとともに、多様な背景を持つ児童が共に役割を担い、自分たちで活動を作り上げる仕組みを一層強化していく方針である。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

本取り組みの意義は、以下の3点に集約することができる。第一に、「主体的な役割による自尊感情の醸成」である。寺子屋プログラム等の活動で、ルーツを問わず子どもたちに役割分担や意見交換を促したことは、単なる学習支援を超え、集団における「貢献実感」を提供している。これが相互尊重の土台となり、自発的な関係性を構築する鍵となっている。第二に、「学校と連携した差別防止の徹底」である。揶揄や差別的言動に対し、学校と歩調を合わせた丁寧な指導を行ったことは、子どもたちに「多様性の尊重」という明確な規範を示し、安全・安心な心理的居場所を確立させている。第三に、「保護者の信頼を通じた地域融和」である。活動を通じて得られた保護者からの信頼は、家庭間の壁を取り払い、地域における多文化理解を促進する基盤として機能している。総じて、本事業は、多様な背景を持つ児童を「支援の対象」に留めず、共に活動を作る「主体」として捉え直した点に真価がある。この歩みは、子どもたちが互いの違いを認め合い、共に支え合う地域文化の構築を確実に前進させている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p><b>地域や学校と連携し、様々な媒体を活用して事業所の情報をわかりやすく提供している</b>            事業所の情報は、児童や保護者が入手しやすい媒体を通じて提供している。毎月のおたよりは紙面で発行し、館内の出入り口付近に掲示し、子育て広場事業の参加者や一般来館の利用者の目にも留まるようにしている。同一の建物内にある保育園他に近隣の保育園や幼稚園にも配付し、さらに、小学校や中学校等の関係機関へ事業所の情報を届けている。ホームページでは、イベントの案内や館だよりの掲載、事業所からの重要なお知らせ等、各担当者が随時更新し、最新の情報が確実に届けられるよう心がけている。</p> <p><b>表記の工夫や写真やイラストを使い、誰が見てもわかりやすい情報発信に取り組んでいる</b>            館から発行している小中高生向けのおたよりは、小学生低学年でもすぐわかるように、イラストを多用し、漢字にふりがなを振る等、表記や構成を工夫して読みやすくしている。毎月発行している学童クラブ通信では、イベントや日常の様子を紹介している。また、ホームページでは、活動内容やイベントプログラムの案内の他、利用方法や施設案内の写真に掲載して紹介し、児童が理解できるよう、わかりやすい情報発信に努めている。また、近隣の学校説明会等に出向いて、学童クラブでの生活が具体的にイメージできるよう話す機会がある。</p> <p><b>見学者のニーズに応じた丁寧な案内と情報提供を行っている</b>            利用希望者からの問い合わせや見学の要望には、個別の状況に合わせて丁寧に対応している。受け付けは電話や来訪のいずれにも随時対応し、見学希望者の要望に合わせた案内を行っている。学童クラブ利用希望者には、学童クラブ室を中心に施設全体を案内して質問に応じる等、ニーズに応じている。見学時には、事業所全体の情報を掲載した各種おたよりやイベントプログラムの案内を配布し、事業所の取り組みを具体的に理解してもらえるよう努めている。入所希望者には区の「学童クラブ等の入会案内、小学生の居場所について」を案内し詳しく伝えている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		○非該当
<b>サブカテゴリ-2の講評</b>			
<b>入会説明会で学童クラブ利用の基本的なルールや重要事項等について丁寧に説明している</b> 学童クラブへの入会が決まった保護者には、3月に入会説明会を実施し、途中入会者にはその都度、説明を行っている。説明会では、サービス内容や基本的なルール、重要事項説明書、利用者負担金等について書類を用いて説明し、保護者への理解と協力をお願いしている。また、重要事項や画像の使用に関して同意書を交わし、同意が得られなかった内容については全体会議で共有している。写真の使用については担当者が確認し、適切な対応をしている。新たな情報の提示が必要な場合も、保護者の意向を確認し、同意を得る体制を整えている。			
<b>利用開始直後は個別の事情や要望に配慮した育成支援を行っている</b> 学童クラブの入会に必要な書式は、ホームページからも入手し電子申請することもできる。児童に関する緊急連絡先や帰宅経路等の把握のため、児童票をあらかじめ提出してもらい、育成支援に必要な子どもの特性、家庭状況、個別の事情や要望等を保護者に記載してもらい、それを基に入会面談で細かな聞き取りを行っている。また、職員は入会する子どもの卒園先からも様子を聞き取り、共有し、子どもへの理解を深めている。特に利用開始直後は、幼保小の架け橋期を意識した育成支援に努め、児童の不安やストレスが軽減されるよう配慮している。			
<b>卒会後も利用を促し、相談に応じる等、継続した支援を行っている</b> 学童クラブオリエンテーションを行い、部屋の使い方、遊び方や過ごし方のレクチャーや館内ツアーを実施している。初めて学童クラブを利用する児童が学童クラブでの生活に親しみをもち、少しでも早く慣れることができるよう配慮している。また、卒会後も一般来館を促し、来館時には児童と積極的に会話し、相談にも応じることで生活の連続性に配慮した支援をしている。事業所は中高生まで利用が可能のため、卒会後も同じ環境で過ごすことができ、安心して利用を続けることができる。継続した支援を通じて、保護者の安心にもつなげている。			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
3	個別状況の記録と計画策定		
<b>評価項目1</b> 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		<b>評点(0000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している		○非該当
<b>評価項目2</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している		○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している		○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(000)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている		○非該当
<b>サブカテゴリー3の講評</b>			
<b>法人スローガンにもとづき、計画的に支援を進めている</b> 法人が目指す理念に基づき、地域の課題を見出し取り組んでいくことを命題とし、育成支援計画を策定している。目標を定め、年間を見通して作成し、定期的に振り返りを行っている。保護者面談時の要望や、学童クラブ保護者アンケートの結果も検討材料とし、育成支援の計画に反映させている。育成支援、自立支援に加え、保護者への支援や関係機関との連携について考え、また、児童の実態や取り巻く状況の変化を踏まえた援助の過程を重視し、毎年、事業計画の作成とともに見直しを行い、多方面にわたる児童の育成支援が計画的に進むよう配慮されている。			
<b>各記録や保護者との連携を取りながら個々の状況に合わせた支援を行っている</b> 児童一人ひとりに関する必要な情報は、学童クラブ日誌に記録して、会議や朝礼、昼礼、夕礼、終礼で共有されている。職員の出勤するタイミングで、常に情報を更新し、育成支援に活かしている。育成支援の計画に基づく援助内容や、発達面で特に配慮が必要な児童の状況や、心理巡回による共有事項については、日誌や会議の議事録内に具体的に記録しており、確認することができる。児童を取り巻く状況の変化や実際については、送迎時の保護者との会話や電話でのやり取りを通じて把握し、その情報を踏まえ学童クラブや児童館での過ごし方を決めている。			
<b>一人ひとりの児童や保護者の気持ちに寄り添った育成支援ができるようにしている</b> 育成支援の記録は事務所内の鍵付きの棚に保管し、職員は必要に応じて閲覧しながら日々の支援に活用している。児童や保護者の状況に変化があった場合は、日誌へ記入する等、必ず記録に残して朝礼、昼礼、夕礼、終礼で報告、共有し、職員間で速やかに申し送りや引継ぎを行っている。また、一人ひとりの児童への理解を深めるため、児童館、学童クラブ担当がそれぞれ毎週部門会議を設けている。職員会議でも事例を持ち寄り、対応を協議する機会を確保している。また、都、区や法人主催の研修に参加し、日々の支援に必要な知見を深めている。			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<b>情報管理と環境整備を通じて、プライバシーの保護に努めている</b> 児童のプライバシー保護を徹底するため、日常の様々な場面で配慮をしている。おたよりや館内掲示に関しては、写真撮影等の同意書を得て作成している。児童に関する情報を外部とやりとりする必要がある場合には、必ず保護者に確認し、同意を得てから対応している。また、着替えの際には指定された場所を使用するよう声をかけ、館内にその旨について注意を促す掲示をして周知を図っている。さらに、児童との会話で個人情報やプライバシーに関わる内容が含まれる場合は、相談室を利用し、周りに配慮した対応をしている。		
<b>個々の考えを尊重し、人権に配慮した支援や配慮を組織的に実施している</b> 職員は、法人主催の職員心得やハラスメント、個人情報保護等の研修に参加し、子どもの人権尊重に向けた理解を深めている。研修後は会議内で内容を報告し、組織全体で情報の共有を図り、事業所全体の人権意識の向上に努め、子どもの権利を守るための支援を組織的に展開していく方向性を明確にしている。また、個人面談や日常的なやりとりを通じて保護者の価値観や生活習慣を把握し、その背景を尊重した支援ができるようにしている。児童や保護者の思いや考え方を考慮し、その人らしい生活を尊重した組織的な援助を行っている。		
<b>問題の早期把握と適切な対応に努め、安心できる環境を整えている</b> 学童クラブでは、利用児同士の暴力やいじめが発生しないよう、組織的な予防と再発防止に努めている。日常の援助の中で起こるトラブルに対しては、まずは、よく話を聞いて状況を正確に把握している。職員は、児童自身が互いに解決に向けた行動が取れるよう仲立ちしたり、見守ったり適切に対応している。トラブル事例は昼礼等で報告し、速やかに共有している。問題が深刻化する前に適切な支援を行えるよう、都度、振り返りを行い、職員間の情報共有と経過観察の強化に取り組み、児童や保護者が安心して学童クラブを利用できる環境を整えている。		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p><b>職員はマニュアルに基づき、適切な行動がとれるよう安全管理を徹底している</b>          学童クラブでは、児童と職員が安全に過ごせる環境を整えるため、館運営マニュアル、児童施設災害時行動マニュアル等を備え、重要事項は職員会議で全職員に周知している。これらは事務室内に保管され、その他に各部屋のマニュアルを整え、いつでも閲覧できるようになっている。また、応急対応や救急要請等、重要な事項や使用頻度の高いものについては、フロー図を作成したり、視覚的にわかりやすく示して掲示したり、迅速な対応ができるようにしている。説明・周知を徹底することで、安全管理の意識向上と業務の統一化を図っている。</p> <p><b>施設内の巡回を実施し、事業所業務の標準化を図っている</b>          職員に対して、マニュアルを活用して業務に関する事前説明を行っている。主任やリーダーは定期的に児童館内を巡回し、業務の進行状況や施設内の安全管理状況を確認し、業務の一定水準を確保している。点検の際に不備が見つかった場合には、速やかに館長に報告し、必要な改善措置を講じる体制が整っている。マニュアルに定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを定期的に点検、見直しを行うことで、サービスの質の維持と向上に努めている。組織全体での継続的な見直しを通じて、安全で安心できるサービスの提供を目指している。</p> <p><b>児童や保護者、職員の意見を反映し、サービスの質の向上に取り組んでいる</b>          新年度に向けて、提供するサービスの基本事項や手順等のマニュアルの見直しを行っている。また、年度途中でも必要に応じて見直しや改善をしている。日々の会話を通じて児童や保護者の声を直接聞いたり、相談ボックス、行事等プログラム終了後のアンケートや保護者会、第三者評価の活用等、機会あるごとにニーズや意向の把握に努め、運営に反映できるよう取り組んでいる。また、現場の声を積極的に取り入れる体制を整え、職員からの意見を吸い上げる仕組みがある。組織として個々の職員のスキル向上とより良いサービスの提供に取り組んでいる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29/29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p><b>発達や生活環境を考慮し適切に援助ができるようにしている</b></p> <p>発達の過程や生活環境等を把握するため、出身保育園との引継ぎや入会後の個人面談や送迎時の会話、電話でのやり取りを通じて情報を収集し、個々の児童の全体的な姿を理解した上で援助を行っている。保護者へ電話連絡をする際には、伝達事項の確認だけでなく、近況を聞きながら会話を深めることを心がけている。また、小学校情報交換会に参加し、児童の学校での様子や必要な情報を共有している。年齢や発達の異なる児童一人ひとりの発達や生活環境を総合的に考慮し、より適切な支援ができるようにしている。</p> <p><b>児童の気持ちを尊重し、安心して集団生活を送れる環境を整備している</b></p> <p>集団生活の中で発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対しては、双方の話を丁寧に聞き、意見や思いに耳を傾け、感情の高ぶりを和らげ、解決に向け気持ちの整理ができるよう援助している。児童一人ひとりを尊重しながら、互いを認めたり理解したり、良好な関係性を築けるよう努めている。また、トラブル時には保護者への支援も重要と捉えている。保護者対応マニュアルを踏まえ、伝え方に十分配慮しながら、保護者の不安や疑問に寄り添った対応をしている。職員間で状況を共有し、働きかけや言動の振り返りを行い、対応力向上に取り組んでいる。</p> <p><b>多様性を受容しながら、互いを尊重できる関係性を作り出せるよう援助している</b></p> <p>月1回学童スペシャルタイムを行い、学童クラブの子ども同士の交流を図っている。スペシャルタイムは、体育館を貸し切りにしたプログラムを企画したり、みんなで楽しめるレクリエーションを取り入れ実施している。各行事でのグループ活動等を通じて、学年や文化、習慣の違いを認め合い、互いを尊重しながら協力し合う関係を築けるように取り組んでいる。また、月1回心理巡回の中で児童一人ひとりの発達の状態に応じた対応について助言を受けている。学童クラブ内での集団生活を通して、在籍している全ての児童が多様性を受容できるよう援助している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p><b>児童が自分の目的に応じて活動を選べるような環境を提供している</b></p> <p>児童の自主性や自発性を尊重しつつ、発達段階にふさわしい遊びと生活を送れるよう環境を整え、全体の児童数が多い中で、一人ひとりを大切にした育成を行っている。学童クラブは5クラス編成で、基本的な生活スペースとして2階と3階の各学童クラブ室に分かれている。児童は毎日の生活の流れやルールを守りながら、図書ラウンジ、スタジオ、多目的創作室、体育館、屋上広場等、自由に利用して各々好きな場所で過ごしている。寺子屋のプログラムで勉強したり、静かに過ごしたり、賑やかな室内で勉強したり自分で選択して過ごし方を決めている。</p> <p><b>集団活動を通して主体性を尊重し、自分のタイミングで挑戦できる機会を設けている</b></p> <p>利用児同士が交流を深める集団遊びを企画し実施している。レクリエーションの内容は、上級生の提案を取り入れて皆で楽しんでいる。互いに関わる中で刺激を受け、学び合いながら集団全体の生活が豊かになるよう工夫している。その中で、脱いだ靴をしまう、自分の持ち物の整理や片付け、おやつや退所時間に学童室に集まる等、生活や遊びのルールを守り自発的に行動できる児童もいれば、個別の声かけや促しが必要なケースもある。集団活動が苦手な場合は、参加を無理強いせず、児童自身が「やってみよう」という気持ちを持てるよう働きかけている。</p> <p><b>生活習慣の定着や学習と遊びの両立を図り、成長を支援している</b></p>			

学童クラブ室内は、視覚的にわかるように表示等を工夫して、片付けやすくしたり、季節や児童の興味関心に合わせ、遊具や本の入れ替えや購入も計画的に行っている。一日の流れはホワイトボード等を活用し、児童が見通しを持って行動できるようにしている。個人のロッカーを使って身の回りの整理整頓ができるよう促し、共用スペースでも自分で使ったものは自分で片付ける習慣がつくよう指導している。生活や遊びを通して異学年の関わりが見られている。生活の流れを安定させ、学習時間と遊ぶ時間にメリハリをつけられるよう支援に取り組んでいる。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>行事は、児童が興味・関心を持って取り組めるように一緒に考えながら進めている</p> <p>職員は行事のねらいを持ち、活動が安全に進められるように留意して立案している。学童クラブ遠足、親子行事、お店屋さんごっこを行う等、児童と共に保護者も楽しめる行事に取り組んでいる。特に長期の休み期間は、児童の意見を取り入れてたくさん行事を行っている。話し合いを重ね、それぞれ役割を分担し当日の進行等を担ってもらう等、みんなで協力しながら準備を進め、児童の興味や関心を高め、ひとつの行事を作り上げる達成感が経験できるように配慮している。児童が自分の得意を活かして、主体的に関わり楽しく参加できるように工夫している。</p> <p>親子交流を深め、育成支援の理解と地域コミュニティへの関心につなげている</p> <p>事業計画では、学童クラブの年間行事を記載し、実施日程や場所、目的や概要を明記することで計画的に進められるようにしている。児童が意欲的に行事に取り組めるよう、準備や実施の段階で保護者の理解と協力を得る工夫を行っている。親子同士の交流を支援する行事として「パパプログラム」に加え「保護者フットサル」を不定期で開催してきた。親子と職員と一緒に活動を通じて交流することで、学童クラブの育成支援の理解や協力につなげ、さらに地域コミュニティの協力者として支えになってもらえるよう、課題意識を持って取り組みを継続している。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>職員が連携し居場所づくりに取り組み児童が安心して通うことができる環境を整えている</p> <p>職員は、子どもに合った遊びの提供を行い、時には遊び相手になったり、生活を見守りながら必要な支援をしたり、良いプレイヤーとして活動が継続するようにしていく役割がある。学童担当職員と児童館担当職員が連携し、事業所全体で児童の特性に合わせた居場所づくりに取り組み、必要に応じてフォローしている。大型の児童施設としての利点を活かし、様々な行事の実施や、多様な設備を利用できる環境を整え、学童クラブでの生活が楽しく快適になるように考え、児童が安心して過ごせる居場所として、自ら進んで通い続けられるように援助している。</p> <p>時間や活動を明示し、生活の見通しを持ち主体的に行動できるようにしている</p> <p>各クラスごとに異なる遊びの展開をしながら、児童が生活に見通しを持ち、主体的に過ごせるように支援している。いつも同じ時間におやつや帰りの会を行い、さらに、一日の流れやおやつ開始、終了時間を掲示で知らせることで、共通する生活時間の区切りを意識して、児童が次に必要な行動を見通し、選択して、行動に移ることができるようにしている。また、帰宅時間を一人ひとりに伝え、確認している。その日の活動内容やスケジュールについて、おやつの時間に口頭でも伝えることで、児童が安心して日々の生活を送れるよう配慮している。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>学校との連携を密にして、学童クラブで安心して過ごせるようにしている</b></p> <p>小学校情報交換会に学童クラブの担当職員が参加し、学校との連携を深めている。学童クラブで起きたトラブルで長引きそうな件や、保護者から意見があった時には、小学校に連絡し情報を共有している。学校での出来事が学童クラブの生活に影響することもあるため、通所している児童の様子や、学習面や生活面の変化等、学校での生活の状況をできる限り共有するよう努めている。児童の状況に応じて、必要な支援や連携のあり方について、電話連絡や随時ミーティングを開き、迅速な対応ができる体制を整えている。</p> <p><b>学校や保護者と連携し、安心できる居場所の提供に取り組んでいく</b></p> <p>学校への行き渋りや不安等、課題が見られる児童に関して保護者から相談を受けた場合には、ケース会議等、個別に対応を行っている。その際には、子どもの様子を細かく観察すると共に、保護者の話を丁寧に聞き取り継続的に協力して、現状を正確に把握することを心がけている。まずは、学童クラブが安心して利用できる場所であることを伝え、児童や保護者の気持ちに寄り添った支援を実施していく。常に家庭と学校と学童クラブが連携を取り、3つの視点で児童をフォローアップできるよう、日頃からより良い関係性を構築できるよう意識して取り組んでいる。</p> <p><b>関係機関と連携し、情報を共有して一人ひとりに合った育成支援を行っている</b></p> <p>障害のある児童や発達面で特に配慮が必要な児童、養育環境で特に配慮が必要な児童の援助にあたっては、登所時に口頭および連絡帳でその日の健康状態や家庭からの連絡事項の有無等を必ず確認している。必要に応じて、関係機関と連携を図り、その児童の特性や状況に応じた適切な対応ができるよう職員間で情報を共有しながら育成支援を進めている。定期的に心理巡回を実施して、集団生活において適切な支援ができるよう助言を受けている。カンファレンスの記録は職員間で共有して日々の活動や、より良い関わりにつなげている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>児童が楽しく食べられるようにリクエストや季節感を取り入れ提供している</b></p> <p>おやつは、児童の来所時間や夕食の時間帯を考慮し、放課後の時間を過ごす子どもたちのエネルギーとなるよう補食として位置付け提供している。児童が、落ち着いて楽しく食べられるよう、季節にちなんだものや栄養バランスを考え、組み合わせ提供できるよう発注している。おやつを食べる挨拶や進行を児童に任せてやってもらっている。児童にとっておやつは楽しみな時間となっており、お気に入りのメニューやリクエストがある場合、職員に声をかけることもある。その際は、限られた予算の中、対応可能な範囲で取り入れるようにしている。</p> <p><b>食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している</b></p> <p>誕生会やお楽しみ会では、児童の意見を聞きながらスペシャルおやつを提供し、おやつの時間がより楽しみになるように工夫している。食物アレルギーのある児童については、入会時に家庭での喫食状況や医師からの指示を保護者から聞き取り、状況に応じた適切なおやつを提供している。誤食を防ぐために、アレルギーの原材料を含むものを購入しないように注意し、発注時にリーダー層、主任層でダブルチェックをして確認をしている。事業所の決まりごととして、アレルゲンを持ち込まないことを徹底している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>安全教育を通じて児童の健康管理と安全意識を育てている</b></p> <p>年度当初に、職員と児童とで一緒に施設内の部屋の使い方や遊び方等、ルールを確認して危険な行動やけがの回避についての注意喚起をしている。遊びや生活の中で予測できるけがの危険性については事前に子どもに伝え、予防する意識を持てるようにしている。日常的に手洗い、うがいの習慣が身につくように、おやつやお弁当の前には繰り返し声かけをして指導し、感染症の予防について伝えている。また、安全に下校できるように帰宅指導も行っている。児童が自分の心身の健康や安全に関心を持ち、行動できるように援助している。</p> <p><b>医療機関や保護者との連携や報告体制を整え安全管理を徹底している</b></p> <p>職員は全体的様子を常に把握して水分補給の声かけをこまめに行っている。子どもが体調を崩した時には、検温し、必要に応じて横になり体を休ませている。保冷剤や経口補水液等は常に用意している。小さな傷や擦り傷等は流水で洗ってきれいにしてから絆創膏を貼る等の手当をしている。育成中の高熱や受診が必要なけがの場合は、職員は主任やリーダー、館長に報告し、必要に応じて保護者への連絡や受診の対応を行っている。けがやトラブル報告の際、職員が速やかに対応できるよう必要事項や情報をフロー図にして各部屋に備えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>個々の家庭状況を把握し、安心して子育てができるよう情報提供や支援を行っている</b></p> <p>個人面談やお迎え時の会話を通じて、家庭の状況や児童の様子を把握し、必要な支援につなげている。保護者が子育てと就労を両立できるよう、個々の事情について話を聴き、お迎え時の声かけや連絡帳、おたよりを通して、保護者とのコミュニケーションを取るようになっている。変更が生じた際には速やかに申し出てもらい職員間で共有している。保護者への伝達事項がある場合には、電話で連絡している。また、毎月発行する学童クラブ通信には、当月の活動予定だけでなく、来月の予定も記載し、保護者が事前に把握できるよう配慮している。</p> <p><b>保護者との信頼関係を深め、児童の様子や成長について情報共有している</b></p> <p>学童クラブでは、親子行事や行事ボランティア参加を通じて保護者同士が交流できる機会を設け、保護者が日常の学童クラブでの活動をより具体的に理解できるようにしている。夏休み前には保護者会を開き、夏休み中の学童での過ごし方や活動内容について説明し、保護者が安心して子育てに取り組めるよう情報共有を行っている。また、保護者参加の行事を実施することで、保護者間の交流の場を提供し、保護者の養育力向上を目指し取り組みを進めている。安全で安心な学童クラブ運営を目指し家庭と施設が連携し、児童の健やかな成長を支えている。</p> <p><b>保護者と共通認識が持てるように児童の様子を伝え安心につなげている</b></p> <p>職員は保護者との信頼関係を深めるために、日頃から積極的に保護者とコミュニケーションを取っている。児童の様子が伝わるようなメッセージを連絡帳に添えたり、お迎え時に様子を伝えたり、保護者が安心できるようにしている。また、直接顔を合わせる機会が少ない保護者に対しては、出欠を確認する連絡アプリのコメント機能を活用したり、電話で状況を伝えたりしている。日頃から保護者との連携を大切に、共通認識を得られるようにしている。子どもに関する気になる点や変化があれば、いつでも相談に応じることができることを保護者に伝えている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>地域資源を活用し、児童の体験や交流を促す取り組みを行っている</b></p> <p>学童クラブでは、地域との連携を深め、児童の生活の幅を広げるための取り組みを積極的に行っている。館祭り(プラリバまつり)に館全体で取り組んでいる。地域の学校のPTA、近隣住民の自治会、幼稚園や保育施設からの参加や、実行委員会ボランティアとしてたくさんの協力を得て実施している。学童クラブのブースの内容は子どもたちと相談して決め、主体的な参加を促している。地域との関わりから児童の体験や交流の場が広がっている。引き続き地域の方々との交流を促進し、地域社会の一員として成長できる環境を提供していく方針である。</p> <p><b>大学や企業と連携した活動や地域行事へ参加して社会性を育んでいる</b></p> <p>近隣の大学や企業との連携を通じて、児童の生活の幅を広げる取り組みにも参加している。また、学童クラブでは、地域との連携を深めるため、行事の際に地域住民をボランティアとして受け入れ、児童が地域の大人と交流する機会を設けている。地域の清掃活動や、自治会のもちつき等に参加する機会や、防災ネットワークと連携し、防災意識の向上と地域との協力体制の構築に努めている。日頃から地域の人々と挨拶をし、住民との顔つなぎや交流を図っている。少しずつ保護者も巻き込みながら地域資源を活かした取り組みを増やしていきたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	職員は保護者のニーズと児童にとってより良い育成支援を熟考し、柔軟に対応している	
内容①	学童クラブでは、「保護者の責任のもと」という確認を交わした上で、育成時間中でも児童がスポーツ少年団や習い事に参加できるように「中抜け」を取り入れている。家庭状況や居住環境、多様な生活スタイル等、その時々の利用者の様々なニーズの存在を認識し、職員は慣例にとらわれず転換していける柔軟な対応を追求している。中学受験志向や習い事の多さで、放課後の自由な時間に制約を伴っている児童にとっての「遊び」「友人や異世代との交流」の大切さを保護者や地域に訴えながら、児童にとってより良い育成支援を考慮して取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	集団生活や遊びの場面で自分のやりたいことを選び安心して過ごせるようにしている	
内容②	一日の予定やイベントのお知らせ等、活動プログラムを児童の目に届くところに掲示するなど、生活の流れを可視化することで、自分自身で見通しを持って行動できるようにしている。おやつや帰りの会の時間を固定して、進行する役割を果たす場面も設け、生活時間の区切りを意識して過ごせるようにしている。児童が自分のやりたいこと、過ごしたい場所を選択できるようにして、学童クラブでの生活が楽しく、安心できる居場所になるよう取り組んでいる。児童が主体的に過ごすことができるよう、職員も見守るだけでなく積極的に関わるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	児童一人ひとりの生活や遊びと集団全体の活動の充実を図り、行事に取り組んでいる	
内容③	まつりっこ会議・花火大会実行委員会・お店屋さん等、子どもたちが考え運営する行事の取り組みがあり、児童は楽しみな気持ちや期待感を膨らませ参加している。異なる学年で構成された集団の中、上級生の提案を取り入れるだけでなく、下級生の意見を吸い上げる機会も設けている。それぞれ自分のできること、やりたいことやアイデアを出して話し合っている。児童の自主性を大切にしながら、それぞれが自分の得意を活かして経験が重ねられるよう、職員も児童全員に目を向け集団活動に関われるよう援助している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域との幅広い連携と交流のもと、地域全体で子どもの成長を見守っている
	内容	運営開始時は、本館(都営住宅に併設)と分館(近隣小学校の位置にあった旧施設)に分かれた運営から始まり、様々な変遷を経て現在に至る。そのため、集合住宅の町会長をはじめ、近隣の小中学校、幼稚園、保育施設、高齢者健康施設、民生児童委員、スポーツ少年団、プレーパーク、防災ネットワーク会議等、近隣施設や組織とのつながりは深い。地域ボランティアとして行事を手伝ってもらったり、こちらが手伝いに行ったり等、幅広い交流を行い、また関係を構築している。地域全体で子どもを育む意識を醸成し、見守ることができている。
2	タイトル	保護者の学童クラブ行事への参加を通じて、運営や育成支援への関心と信頼関係を深めている
	内容	日々のコミュニケーションを通して保護者との信頼関係を深めている。保護者が学童クラブでの活動や、児童の様子を知ることができるよう構成を工夫して毎月おたよりを作成・発信し、取り組みを見える化している。また、保護者が学童クラブ行事(ブラリバまつり・お泊り会・昼食づくり・親子の集い)に参加することで保護者に学童クラブについてより関心を持ってもらい、職員と同じ目線で育成支援に向き合えるよう働きかけている。さらに学童クラブの運営や活動の実態や地域との関わりにも目を向け、協力を得られるよう職員が一丸となり取り組んでいる。
3	タイトル	職員間の連携を密にして情報共有し、共通認識を持ち育成支援を行っている
	内容	児童一人ひとりを尊重して個性を大切に、個々の思いに寄り添う育成の実践に努めている。毎日のミーティングや職員会議を通じて、各職員の意見を取り入れながら育成支援の方向性を共有している。日々の育成の中で気づいた些細なことでも必ず共有するようにしている。児童の体調やトラブルの対応等の引継ぎ事項や、配慮が必要な場面等の情報を朝礼、昼礼、夕礼、終礼でタイムリーに更新し共有している。職員としての判断や適切な振る舞いについても都度話し合っている。職員間の風通しは良く、密に連携を取りながら、育成支援に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	児童の実態や状況の変化に応じた育成支援と組織力の向上を目指していく
	内容	年間育成支援計画に則り、職員が多面的に児童の現状を理解し、その上で項目別に達成度を振り返り、発達段階や特性に応じた長期的な育成目標を設定したり見直しを持っていくことを目指している。そのためには、個々の職員がより一層やりがいを持って仕事に取り組めるよう互いの強みを認め合い、足りない部分を補い合えるよう、組織としての力をさらに強くしていく必要がある。若手職員と年長職員のバディ体制を一層上手く機能させ、また、研修等の充実を図り、明確な育成目標のもとで職員が同じ方向を向いて支援に当たっていくことを課題としている。
2	タイトル	児童の育ちを共有しながら、地域コミュニティとのつながりを深めていく
	内容	親子で参加できる行事を設け、児童の育ちの共有を図ってきた。これまでの「パパプログラム(工作や運動あそびなど父と子で楽しむ)」に加えて、「保護者フットサル」を開催し、父子(母でも可)同士と職員がスポーツで汗を流しながら交流することができた。今後も、保護者が子育ての楽しさを体感し、児童の成長を共有し一緒に楽しめる企画を立案し、参加を増やしていく意欲を持っている。地域ぐるみで子どもを育てていく視点を持ち、地域コミュニティとのつながりを深め、協力者になってもらえるよう取り組みを継続していくことを課題としている。
3	タイトル	専門性を高める学びを通じて、知識と技能の共有と向上を目指していく
	内容	背景、経歴や資格も様々な中、職員一人ひとりの得意分野を活かし、児童の状況に合わせた支援を全職員が実践してきた。障害の有無に関わらず一緒に過ごす中で互いの違いを認め合い、社会性や共感力を育んできた。多様性を受け入れ、全ての児童に公平な機会を提供していくためには、専門性を高める学びを継続し、障害(発達障害含む)のある児童への支援について全職員のスキルアップを図っていく必要がある。園内研修や外部研修の機会を増やし、得た学びを会議等で全体で共有し、個々のモチベーションの向上を図っていくことを課題としている。